

## レジリエンスの考え方を取り入れ **全職員で結びつき** **相互作用**でつくる**医療安全**へ

**第21回医療介護安全大会**  
 歴代最大568人の参加



7月24日の午後、「第21回医療介護安全大会」が開催されました。今大会は三密回避のため、「Web聴講」と「集合聴講」とのハイブリッドという初めての試みで行われました。

### 安全は医療の質の核

開会の挨拶で田端理事長は、同仁会として「安全への到達点」を客観的に把握することの大切さを訴えられ、「安全は医療の質の核。患者や利用者の人権を守る私たちには、安心・安全の医療と介護を守り切るという決意の継続とシステムが不可欠である」と強調されました。

基調講演は、医療安全や医療の質分野で大変著名である、独立行政法人労働者健康安全機構、及び大阪大学医学部の中島和江先生にご講演いただきました。「弾よく乱を制す・医療チームや組織

スなのだと思います」と締めくくられ、レジリエンスが日常の中の身近なものであることを印象づけられました。

「レジリエンス」と題して、「安全」に持続的適応力のある組織について述べられ、「擾乱」と「制約」の多い医療や介護の現場では、ルールの遵守とミスの徹底排除に努めるだけでなく、組織内の相互作用による「目に見えない」にも着目すること、システム全体のふるまいを理解する「統合的アプローチ」を取らなければならぬと説かれました。

### 苦難を私たちの強さに変えていく

閉会の挨拶では、総合病院の河原林病院院長が、「新型コロナウイルスで培った経験、職種や部署の壁を越えて全職員で、臨機応変に多くの困難に取り組んだ経験は、これからの日常診療の様々な場面で必ず生きてくると思っています。苦難を私たちの強さに変えること、これがまさしくレジリエン

### レジリエンスとは

回復力、復元力。「うまくいかなかったことに着眼するのではなく、多くの「うまくいっていること」に注目し、チーム全体が協力し合い、良い方向に進むという概念。

シリーズ  
 みみはらの人 ⑱

## みみはら 十人十色



おおた ときこ  
**太田 斉子さん**  
 ひまわりの家蔵前 施設長

看護師歴29年の経験を生かして、医療ケアや介護が必要な方に寄りそい、利用者さんの日常を支えています。どんなに忙しくても、本を読むことは欠かせず、それが私のストレス解消法です。

皆さんと一緒に日々を  
 過ごしたい

シリーズ18回目は、社会福祉法人ひまわり会・ひまわりの家蔵前（サービスタワー）の高齢者向け住宅で働く太田斉子さんです。

—現在の職業についてどう思っていますか？

高校進学を決める時に、「専門職に就こう」と漠然と思いついたが、この道に進むきっかけは、この道に進むきっかけは、看護師になり、「急性期の仕事より慢性期、特に高齢の方や疾患・障害を持ちつつ日常生活を送っている方々の療養支援をしていきたい」と思い、今の仕事にたどり着きました。

—今の仕事で、大切にしていることは？また、どんな時にやりがいを感じますか？

利用者さんが、日々の療養生活を送っておられる中で様々な悩みや問題

にぶつかったとき

に、解決法や解決するための手段を、できるだけたくさん選択肢をもつて一緒に取り組んでいくこと、そのための準備をしておくことが重要だと思います。そして、利用者さんが自身で選択したことやものに対して、精一杯サポートしていくことが私たちの仕事だと思っています。

—介護の仕事をしていて、憤りを感じることはありませんか？

介護職の方々と一緒に仕事をしています。介護職は、国の制度から軽んじられていると思いがちです。資格取得や研修に関して、ほとんど支援なく現場に入らなければならぬにも関わらず、高い基準を要求され、さらには低賃金です。

人手不足の中、外国人雇用や無資格者の登用などが進められており、ま

ずまずんざいに扱われていくのではないかと危惧しています。

—あなたにとって「ひまわり」とは？

人生と密着している存在なので、普通にあるべきものの「ような感じ」です。

—友の会や患者・利用者さんに伝えたい思いなどをどうぞ。

小さくて、あまり力もありませんが、鳳、蔵前とともに、皆さんと過ごしていけたらと思っています。穏やかな時も、災害などの緊急事態の時も、少しでも地域の皆様の療養生活に安心や安全が広がり、楽しみが加わるように頑張ります。